

羅 針 盤			方 策		点検・評価	達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等		
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校生活全般について満足している生徒の割合は90％以上である。	学習活動及び部活動・生徒会活動等を充実し、生徒の満足度を高める。		A	A	A	学校評価アンケートでは93％の生徒が学校生活に満足している。今後も3兎を追う学校として全人教育に努めていく。また、満足できていない生徒も7％いることも忘れず、どのような部分で満足できていないのかを今後は分析し、改善につなげていく。 探究活動のスタートとしての講演会は、生徒にとって有意義であり満足度も91％と非常に高い。Oxbridge研修をはじめ国際交流を促す行事に対して少しずつ意識が高まっており、海外留学や海外進学へ興味をもつ者も出てきている。
		② 「探究基礎」(1年)、「科学探究Ⅰ」「探究総合」(2年)、「科学探究Ⅱ」(3年)の活動を通じて自らテーマをみつけ、解決していく探究力が身についたと感じる生徒が80％以上である。	課題設定や実証的な情報収集など、探究活動のスキル指導の充実を図る。		A	A	A	
		③ 「イノベータ講演会」が探究活動の充実や活動意欲の向上に役立っていると感じる生徒が80％以上である。(1年のみ)	4月に外部講師を招いた「イノベータ講演会」を開催し、意欲と質問力の向上を図る。		A	A	A	
		④ Oxbridge研修やその報告会およびその他のグローバル教育に関する活動を通じて、グローバル社会での生き方や異文化に対する理解が進んだ生徒が80％以上である。(1・2年のみ)	グローバル教育活動に参加した生徒たちの体験を共有させるよう努める。Oxbridge研修を継続し、国際交流や国内・校内等での研修参加を促すよう努め、海外留学・海外進学の機運を醸成する。		A	A	A	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	① 工夫された授業が展開されており、授業に80％以上の生徒が満足している。	ICTの活用やAIの導入など、授業がより充実した双方向的な内容となるよう改善を図る。また、生徒の進路希望や適性に応じたクラス編成や授業展開を行う。		A	A	A	学校評価アンケートでは93％の生徒が本校の授業に満足している。ICTの使用についても進んできており、毎時間PCを持ち運ぶ先生が増えている。ICTを利用することで、生徒の考えの広がりにつながるよう利用方法を共有していくことが今後の課題。 英語と数学で実施している習熟度別授業についても93％の生徒が満足している。習熟度にすることで生徒の実態に即した教員の発問などができ、満足につながっていると考えられる。 自ら考え、発表するなど主体的な活動の目標は80％であるが、アンケートでは全学年平均79％と目標に届かなかった。具体的には3年が84％、2年が75％、1年が78％と低学年で少し低い評価となった。授業展開で生徒の主体的な活動をもっと取り入れていく工夫が必要となる。 SSH講演会では、従来の土曜講演会に比べて参加しやすくなったと思われる。講座数も多く設定し、幅広い興味・関心に対応できる者となるよう継続していく。 クロスカリキュラムやICE評価を取り入れた授業が徐々に拡大していきつつある。今後も更に推進していく。
		② 英語や数学などの教科で行っている少人数授業や習熟度別授業に90％以上の生徒が満足している。	クラス分けの方法や時期を工夫する。 小集団の特性に合った授業内容・指導方法で授業を行う。 発問内容・方法の工夫により学習意欲の向上とともに、協動的な学びを進める。生徒が発表する場面を意図的に増やす。		A	A	A	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	① 生徒自ら考え、発表するなど、主体的な活動を行う生徒が80％以上である。	学年及び教科で計画的に研究授業、授業研究を実施する。		A	B	B	
		② 生徒が主体的に授業に取り組めるような授業改善のための研修会を各学年や各教科などで年に2回以上実施している。	SSH講演会では魅力のある講演を実施し刺激を与え、積極的に探究活動を進めていく雰囲気を作り出していく。 AI型授業、外部英語検定(GTEC,英検等)受検、ディベート活動等を推進し、学校全体でコミュニケーション能力を向上させる意識を持つ。		B	A	A	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 基礎・基本の定着を図る指導が充実した	① 平均家庭学習時間を1・2年で3.0時間、3年で4.5時間以上確保して、予習と復習に努めている。	様々な教科・科目において教科横断学習や探究活動を行う。 各教科・科目の授業において探究のサイクルを回し、学習内容に対する興味・関心の高揚を図る。ICE評価も引き続き取り組んでいく。		A	A	A	学年と協力し遅刻防止や昇降口での朝の声かけを行い基本的な生活習慣の確立に向けた指導を行った。95％の生徒が生活習慣の確立に努めている。今後も学年と連携し必要な課題に取り組んでいく。 目標値には達しなかったが、実人数で92％の生徒が部活動に加入し活動した。自己評価にもあったように、90％以上の生徒が主体的に部活動に取り組む、その結果、関東大会以上の上位大会に六つの部が出場できた。また、95％以上の生徒が学校行事に自主的・主体的に取り組んだと回答した。その一つの結果として、定期戦に8年ぶりに勝利することができた。一方、文武両道を実践できたと回答した生徒の割合が第1回は86％であったものの第2回の調査では75％に減少してしまった。学期が進んで行く中で学業に費やす時間が減少した生徒の割合が増加したことが原因の一つと考えられ、「三兎を追う」を掲げている本校としては、学習時間の確保が重要な鍵の一つであると思われる。学校図書館の貸出冊数は、3,700冊を超えている(1月15日時点)。しかし、生徒が積極的に読書に取り組んでいるとする割合は約40％となっており、読書生徒と不読生徒との二極化、不読生徒への働きかけが課題として見えた。
		② 英語等によるコミュニケーション能力が向上していると感じる生徒が80％以上である。	オリエンテーション等で家庭学習の大切さの理解を徹底させ、授業と家庭学習が一体となった学習活動を展開する。		A	A	A	
	5 指導を行っている	① 学年会議・生徒指導部会議・教育相談係会議において、生徒に関する情報交換を月に2回以上行っている。	学年と生徒指導部とが密接に連携し特活部等からの情報も共有しながら、生徒の理解を深め、早期の対応を図る。		A	A	A	
		② 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	学年や担任を通して家庭との連携を図りながら、自律的な生活習慣を導いていく。		A	A	A	
	6 生徒が自主的に活発な活動をしていますか。	① 部活動に実人数で95％以上の生徒が加入している。また、関東大会以上に出場の部活動5つ以上を目指す。	学年や特活部と連携し、生徒職員が一体となって、自主的・自律的精神に基づいた活気のある学校作りを行う。		A	A	A	
		② 部活動が生徒の主体性を生かし、能動的に活動できていると感じている生徒が90％以上である。	文武両道の観点から充実感に満ちた高校生活に導くと共に、部活動への真摯な取組と上位進出を促す。		A	A	A	
	7 生徒が主体的に生活ができていますか。	③ 部活動に取り組む生徒のうち、文武両道を実践していると感じている生徒が80％以上である。	練習計画の作成等に生徒の意見を積極的に取り入れたり、達成感を味わえる場面を設定したりする。		A	A	A	
		④ 定期戦及び優勝賞ををはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80％以上である。	学校の部活動運営方針に則した活動により、生徒の学習時間を確保する。		B	B	B	
	8 防止活動に積極的に取り組んでいますか。	① 本校の「スマホ利用ルール」を理解し、それに従った生活ができている生徒が80％以上である。	行事等の活動に対して、生徒自身の自主的自律的な活動を促し、存在感や達成感を持つことができる。		A	A	A	
		② 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると考えている生徒が90％以上である。	ホームルームや学年集会、講話等の機会を捉え、指導を徹底する。		B	B	B	
	9 読書指導が行われていますか。	① 学校図書館の貸出冊数が3,500冊を超えている。	人権教育やいじめ防止への啓発活動に加え、いじめに関するアンケートを各学期に行い、実態把握から対応まで計画的・組織的に行う。		B	B	B	
			国語科をはじめ各教科と協力し、貸出冊数の増加を目指す。図書委員会の活動をより積極的なものとし、企画展やビブリオバトル等を通して図書館利用を促す。		A	B	B	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	① 大学・企業・研究所研修、インターンシップ等のキャリア教育行事に満足している生徒が80％以上である。	生徒の進路意識・職業意識を高める進路行事を進路指導部・探究部と学年が連携して計画・立案し、実施する。		A	A	A	キャリア教育行事について約9割の生徒が満足している。学習合宿についても参加した生徒は95％の生徒が今後の学習に役立つと考えている。進路目標の実現については継続して指導しているところだが、高い目標に向かって妥協せず挑戦する姿勢を支援していきたい。
		② 希望について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	前年度までの総括をもとに、学習合宿実施の意義に見合った時期・場所・内容等の検討を行う。		A	A	A	
	11	① 生徒のより高い進路目標の実現を目指し、生徒の大学合格率が80％以上、大学進学率が70％以上である。	納得のいく進路選択ができるよう適切な情報を提供するとともに、同じ志を持つ生徒同士の相互作用をうまく誘導する。		—	—	—	
			学校行事等の記事など、新しい情報をタイムリーに発信する。部活動の顧問にWebページの更新を促す。		A	A	A	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的な情報発信をしていますか。	① 「前高Web page」の内容について、満足している保護者が90％以上である。	行事ごとの記録や、各分掌・学年・部活動の情報収集を行い、年間6号の発行を行う。		A	A	A	同窓会と連携した開校記念講演会、保護者対象の母の会講演会など、適切な講師による講演会を開催できた。PTA新聞については、校内行事だけでなく、地域や歴史を取り上げた記事を掲載する支援をした。「サイクルサミット」に参加した生徒による活動報告を行ったり、全校生徒へ交通に関する情報配信を行い注意喚起を行った。次年度への課題として、年度当初に交通事故が40％発生している所以对策を考えたい。
		② 学校通信や学年通信などによる学校からの情報提供に満足している生徒・保護者が90％以上である。	PTA・母の会等との連携を密にして、講師の選定を行う。PTA新聞作成に当たり、保護者役員の制作活動や情報収集をサポートする。		A	A	A	
	13 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	① 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年に2回以上実施している。	交通法規やマナーの徹底に加え、余裕を持った早朝登校や、大通りを利用した通学など、事故に遭いにくい通学を促す。		A	A	A	
		② 規範意識と危険回避能力を高める指導を行い、自転車事故15件以下を目指して指導する。	交通安全教室の形態・指導内容等を前橋高校の現状に合ったものになるように工夫すると共に生徒会役員や風紀委員会を中心に自発的活動を促す。		A	A	A	
	14 生徒の安全意識向上の取り組みを行っていますか。	① 安心・安全な自転車利用のためには、自転車保険の加入やヘルメット着用が必要であると自覚している生徒が90％以上である。	毎月安全点検を実施し、施設面の問題の改善に努める。1学年と連携し、洪水災害を想定した避難マニュアルを周知する。年2回の防災避難訓練の実施と、浸水時を含めた避難マニュアルの周知により、災害発生時に職員・生徒が適切な対応をできるようにする。		B	A	B	
Ⅵ 学校における生徒の健康・安全に努めていますか。	15 環境面で生徒の安全が確保されていますか。	① 健康面で安心感があると、80％以上の生徒が回答している。	保健委員会活動(保健だより等)により、感染症、熱中症、AEDの使い方等の健康に関する情報を発信する。 感染症対策として、手洗い用石鹸等を用意する。		B	A	B	年2回の防災避難訓練が役立っているか。という質問に対し、そう思う、ややそう思うと答えた保護者は合わせて90％以上であった。しかし、トイレの悪臭などの施設面での問題解決はできていないため、次年度の課題である。 保健だよりで、感染症対策や熱中症対策を扱ってきたが、保健委員が主体であったとは言えない。また、次年度はホームページへの掲載を検討した方が良い。
		② 災害発生時に適切な行動をとることができると自覚している生徒が90％以上である。	ICTを活用した新たな教材や学習活動を積極的に取り入れる。 ICTの効果的な活用に関する校内研修を行う。 各種調査や連絡等でgoogle classroomなどの利用を図る。 資料や情報の蓄積をデジタルデータ化する。		A	A	A	
Ⅶ 教育のデジタル化に努めていますか。	16 保健面で生徒の健康が確保されていますか。	① 授業等でICTを活用した指導を行っている教員が80％以上である。	ICTを活用した新たな教材や学習活動を積極的に取り入れる。 ICTの効果的な活用に関する校内研修を行う。 各種調査や連絡等でgoogle classroomなどの利用を図る。 資料や情報の蓄積をデジタルデータ化する。		A	A	A	同窓会と連携した開校記念講演会、保護者対象の母の会講演会など、適切な講師による講演会を開催できた。PTA新聞については、校内行事だけでなく、地域や歴史を取り上げた記事を掲載する支援をした。「サイクルサミット」に参加した生徒による活動報告を行ったり、全校生徒へ交通に関する情報配信を行い注意喚起を行った。次年度への課題として、年度当初に交通事故が40％発生している所以对策を考えたい。
		② ICTを活用することで、分掌業務等の改善を進めている教員が80％以上である。			A	A	A	